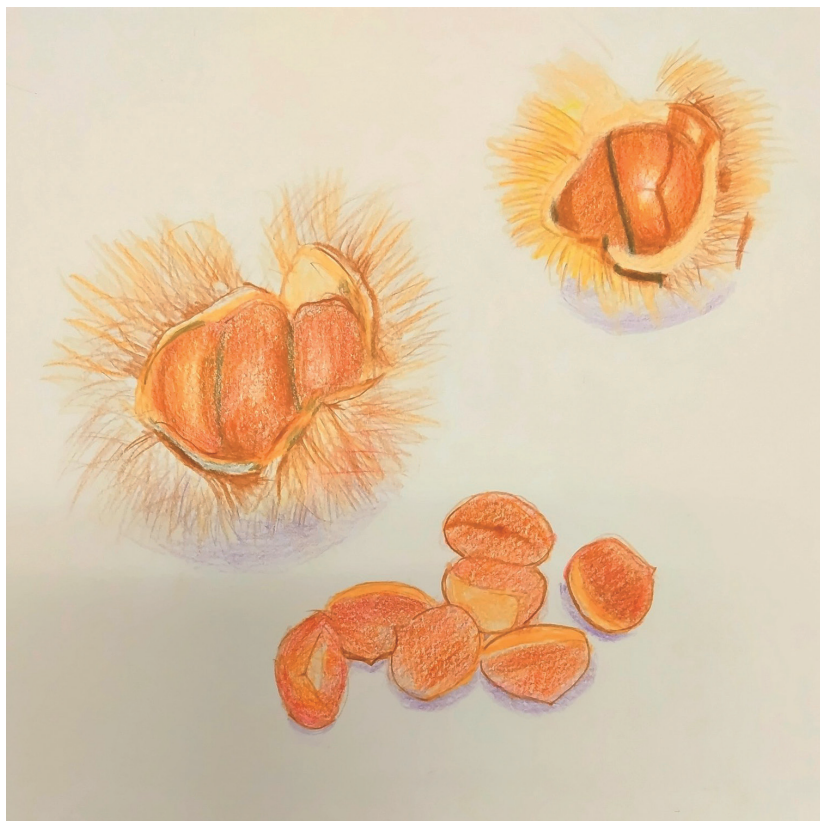


月刊 みんなねっと

10
2025



秋の収穫

特集 家族会60周年を迎えて
～家族会の必要性



公益社団法人 全国精神保健福祉会連合会

オンライン交流会開催のお知らせ

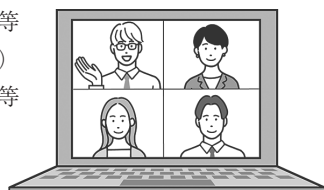
お互いの顔をみながら、みんなで語り合いましょう！

精神保健福祉サービスに関するニーズが最も高い発症間もない家族に対する情報提供や支援がほとんど行き届いていない！！

みんなねっとではこうした状況に対して、家族同士が安心して気軽に繋がり相談や情報交換ができるように、ウェブ会議システム（Zoom）を用いたミーティングを企画しました。

1. 日程及び担当者

- ・第1回 終了
 - ・第2回 令和7年11月16日（日） 担当者：前田、都道府県連役員等
 - ・第3回 令和8年1月18日（日） 担当者：前田、下屋敷（岩手県）
 - ・第4回 令和8年3月15日（日） 担当者：前田、都道府県連役員等
- ※各回共通 13：00～16：00（12：50受付開始）



担当者の紹介※

第1回～第4回

前田 直（精神に障害がある人の配偶者・パートナーの支援を考える会／みんなねっと理事）

第3回

下屋敷正樹（岩手県精神保健福祉連合会／みんなねっと理事）

※誌面の都合により詳しいプロフィールはみんなねっとホームページをご覧ください。

2. 定 員 各回15名程度

3. 参加費 賛助会員：無料、非会員：1,000円 クレジットカード決済または銀行振り込みでお願いします

4. 備 考

※各回、定員になり次第締め切り致します。予めご了承ください。

※本企画の趣旨に賛同いただき、今後オンライン交流会の運営に協力いただける「コアメンバー候補」を3名程度募集しております。全4回の日程のうち3回以上参加可能で、ご希望の方は「コアメンバー候補」として申し込みください。

※参加のお申込みをいただいた方には、お申込み後2－3営業日以内（土日祝日を除く）にサロン事務局よりメールをお送りいたします。メールが届かない場合は、お手数ですがお問い合わせ先までメールのご連絡をよろしくお願いいたします。

※誤ったメールアドレスを入力されますと、お申込みの受付順が遅れてしまう場合がございます。メールアドレスは正確にご記入いただきますよう、よろしくお願いいたします。

5. 申 込 みんなねっとホームページまたは、申込フォームかQRコードを読み込んでお申込みください。申込フォーム：<https://qr.paps.jp/SerVk>



もくじ

2025年 10月号 通巻第223号

2 みんなのわ——読者のページ

6

特集

家族会60周年を迎えて～家族会の必要性

白石弘巳、飯塚壽美



14 多事彩々 ありのまがいい 野村忠良

16 みんなねっと相談室から(第78回)

離れて暮らす娘への想い

18 子ども・きょうだい・配偶者 家族いろいろ(その65)

諦めきれず進んできた8年間

20 リレー連載「リカバリーをめぐって、対話のように」⑥

精神科の訪問看護を続ける～児童思春期に舞台を移して～ (対話) 逆井裕美・岩谷潤

24 知りたい！聴きたい！こんなとりくみ(第54回)

保護猫たちに会える癒しのカフェ

28 フレー！フレー！これからの家族会 第30回 河内長野市精神障がい者
家族会 わかば会(大阪府)

30 新会長に聞く！ 第1回

32 お知らせします みんなねっとの活動

34 マンガ 生きている。 第1話 うらうめ もち子

〈表紙絵〉T.M (群馬県)

〈メッセージ〉栗の絵で秋を感じてもらいたい。

読者のページ

みんなの
わ

「みんなのわ」は、読者のみなさんからの
お便りや投稿を中心に紹介するコーナーです。

「みんなねっと」の感想

◆滋賀県 前田幸夫 家族（70代）

7月号「家族いろいろ その62」を読ませていただきました。坂本様の文章にほっとしました。息子が統合失調症との診断を受け20年余りになります。今、息子は通院しながら、介護

士として仕事をしていますが、この息子とどのように向き合いながら過ごしていくか、私がいなくなったらどうして行くのかなど、課題はたくさんあります。坂本様の40年にわたる歩みを读ませていただき、私も日々の暮らし方など、ぼちぼちとやっていくしかないかと思いました。

日常生活

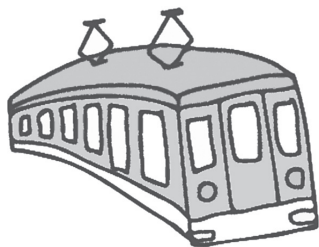
◆茨城県 大高律子 家族（70代）

グループホーム在住の次男が、初めて電車で帰省しました。途中、気分が悪くなるのではな

いかとか、特急にするとか、鈍行にするとか、心配しながらの様子でした。

一時間の鈍行での旅。笑顔の彼が駅に立っていました。たくさんさんの内科疾患を持ちながらも、これらを乗り越え、46歳の次男は、勇気を持って一歩踏み出しました。

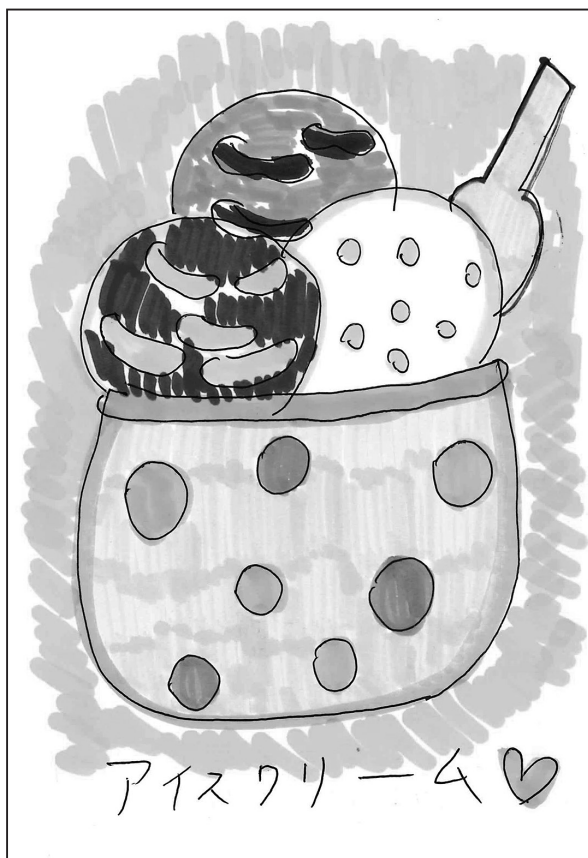
ほんのささやかなことですが、嬉しく投稿しました。



◆東京都 berry 家族・
本人（50代）

私事ですが5月15日に6年働いた会社を退職しました。今はとあるところに通ってプログラム（セミナー）を受けたり、アドバイザーに相談しながら転職活動をしています。

なかなか気持ち切り替わらずにいましたが、秋までには転職出来たらと思っています。主治医も退職を機に転院することになりました。拠点病院だからとのことで主治医の方から転院を言われました。新しい先生は優しい方のように、信頼関係を築いていければと思います。支援者（支援機関）も変えようと思っています。定着支援は一



◆群馬県 大井田和子 本人（40代） イラスト

生懸命していただいたように思いました。退職手続きと転職活動で考えのズレや気になるとがどんどん出てきてしまいました。変化の多い今日この頃です。

◆北海道 スーちゃん 本人
(40代)

私は今、グループホームに住んでいます。一人暮らしor結婚生活がしてみたいと考えることがあります。私の最大の弱点は眼球上転があることです。けっこうひんぱんになるので、家事がスムーズにできない時があると思うからです。私が働く作業所には、障害をもちながらも結婚されている方が2人います。

す。2人とも、障がいが軽く、私のように目があることもありません。だから結婚できるのだと思います。今は週4回、夕食が出て、そうじも共同部分は職員の方にやつてもらっている生活です。

短大の時、占い師に見てもらったことがあります。一生独身で、仕事をがんばる人だと言われました。いつも占い師のことが思い出されます。当たってる。



詩・その他

◆熊本県 ゆめか 本人(40代)
人を信じるのが怖い・でも信じたい

話そうとすると、のどのおくがキュツとなつて話したいことが話せない。

人をきらいになるのが怖くて心のおくにとじこめる。
フリーズしてしまう。
伝えたい言葉がひらひらとまつてゆく。

そんな時、声をかけてくれる人はみんな優しくった。
少し心が楽になった。

明日、みんなが笑えますように
😊

◆神奈川県 ゆり乃みのり 本人 (60代)

晴れたらいいね

雨の日もあれば

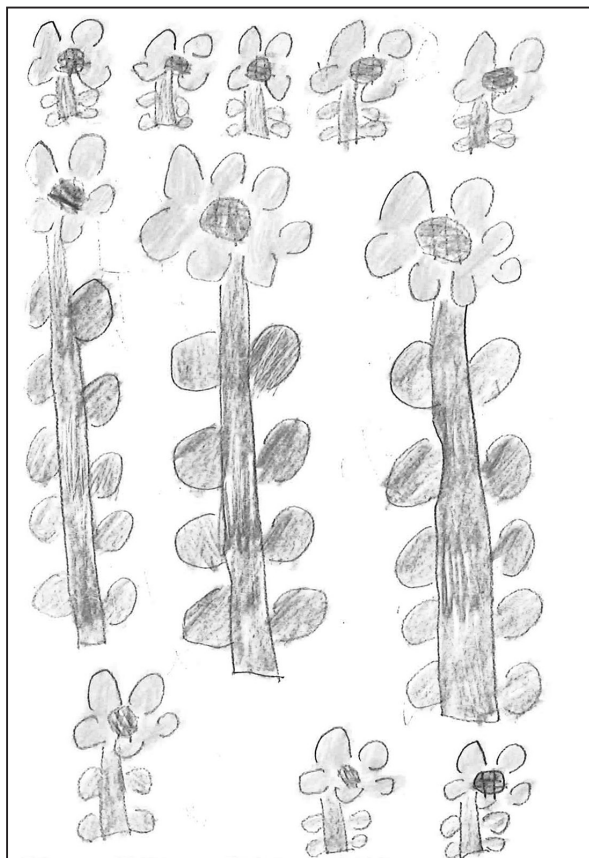
曇りの日、晴れの日もある。

私は雨上がりの空が好き。

雲が流れ、雲の切れ間から光が差し込み、一瞬のうちにパツと晴れ晴れした空が大好き。

今ゆうつな気分、心の病と向き合っています。

私もいつか、あの雨上がりの空のようにパツと晴れたらいいなあ。



◆山梨県 羽田美春 本人（40代） イラスト

特集

家族会60周年を迎えて

～家族会の必要性

体験を力に変えるお手伝いを続けて

埼玉県済生会なでしこメンタルクリニック院長 東洋大学名誉教授
特定非営利活動法人川崎市精神保健福祉家族会連合会(あやめ会)理事

白石弘巳

私の歩みと家族会

私は精神科医として、時代と人の流れの中を「ころがって、つながる」ことで生きてきたと感じています。家族会ともたくさん貴重な出会いをいただきました。その関わりのはじまりは、昭和50年代後半、家族会の尽力

でできた共同作業所の運営に関わっておられたある親御さんがもらった「私がこんなにがんばっているのに子どもは作業所に行こうとしないんですよ」という一言でした。私は、子どもを思う気持ちからやむにやまれず行政や医療・福祉の不備を補うべく活動を行っても、なお本

人と一枚岩になれない家族の立場の困難さに触れ、家族を応援することに意識を向けるようになりました。

それから、40年弱の間、川崎市の家族会（以下、あやめ会）をはじめ、各地の家族会の勉強会・講演会の場や、定期的に送っていた家族会会報などを通じて家族の経験に接していなければ、今の私はありませんでした。

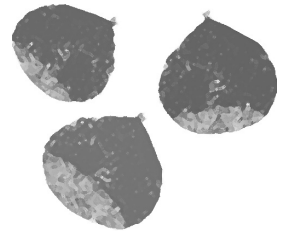


白石弘巳さん

全家連と「みんなねっと」

私は1990年代以降、全家連で経験を積ませていただきました。「ぜんかれん」誌への執筆、保健福祉研究所での研究協力、「家族・本人のための統合失調症講座」(VHS3巻)監修など、さまざまな形で関わりました。特に、全家連の「レビュー」という雑誌に『ひきこもり』の保障と『ひきこもり』からの援助(1999年)という一文を寄稿したことをきっかけに、川崎あやめ会会長であった小松正泰氏と親しくなり、これがあやめ会の活動に協力するきっかけになりました。

2005年の全家連解散時、



私は理事を勤めていました。理事であつた者として、全国の家族会の皆様に多大なご心痛をおかけしたことを心から申し訳なく思っております。

「みんなねっと」では、小冊子「私たち家族からのメッセージ」(2011)や全国アンケート調査の報告書作成への協力、「メリデン版訪問家族支援」の試行活動(日本財団補助事業)への関与のほか、2021年の

全国大会東京大会では「当事者・家族がいきいきと地域で暮らしていくために」と題して基調講演を行う機会もいただきました。

あやめ会での活動

あやめ会では、2000年頃から、ひきこもりがちの方への訪問活動(「窓の会」の訪問活動)や、会員を対象とした勉強会に関わっています。

窓の会の訪問活動は、ひきこもりがちな当事者と楽しいひとときを過ごすことをモットーとして、学生や市民ボランティアが会員の自宅を訪問する活動です。私もその一員として自宅を訪問し、希望があれば一緒に外

出もしました。開始した2000年頃は、精神疾患を対象とする訪問看護はまだ普及しておらず、ないなら自分たちで作るという意気込みでした。窓の会の訪問件数は2018年末までに計1793件になったとの記録が残っています。最近は何数こそ減りましたが活動はまだ続いております。20年近くになる人もいます。訪問をきっかけに月1回電話で連絡を取りあっている人もいます。

家族の会員の方々を対象とする勉強会には年6回うかがっています。「薬物療法」などその日のテーマに沿ってお話ししますが、ご質問を受ける時間を長くとるように心がけていま

す。理事長はじめ役員の方々のご尽力により、参加者が40人を超えることもある状況です。あやめ会50周年の記念大会（2018年）では「これまでの50年とこれからの精神保健福祉」と題して基調講演する機会をいただきました。会場で旧知の会員の皆さんや関係者とともに50周年をお祝いでき、とても晴れやかな気持ちになったことを記憶しています。

「家族と専門家の交流会」

家族会の活動ではないのですが、私がご家族に関わる貴重な機会であった「家族と専門家の交流会」にも触れさせていただきます。縁あって、私は精神科

医仲間であった故・松原雄一氏が1992年に企画した「統合失調症家族のための教育」と題する講演会の講師を勤めました。当時、「統合失調症」を冠したこの種の講演会は珍しかったためか、朝日新聞が紹介し、全国から2000件近い参加希望が寄せられました。私はその反響に驚き、家族の希望がある限り、情報提供の場をもうけよ





うと考えました。その結果、1995年以降、多くのボランティアの協力を得て、「家族と専門家の交流会」を毎年2回はじめ文京区、次いで渋谷区の公共施設で、コロナ禍で中止するまで約25年にわたって続けてきました。この会には、毎回50人を超える出席者があり、中には東京はじめ近県の家族会に所属している方も多くいらつしや

いました。「交流会」には、看護師、薬剤師、精神保健福祉士、市民の方などさまざまな立場の方がボランティアとして参加してくださり、事前にFAXでいただいた10件ほどの質問のそれぞれに対し、時にはスライドを使って丁寧に回答することを心がけました。この会が長く続けられたのは、このような運営方針が家族の方に支持された結果だと思っています。

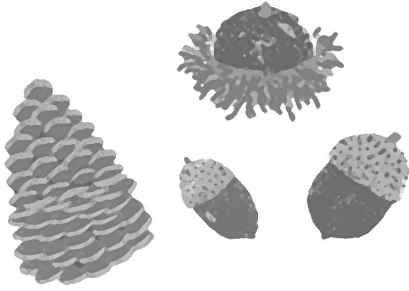
「メンタルヘルス・リテラシー」 家族会が育む力

私が臨床医として家族会の皆様に提供できるのは、精神疾患の説明や治療法、精神保健福祉の法制度などについての情報で

す。主治医の立場ではないので、提供できるのは一般的な情報提供にとどまります。一方、家族の方々は多くの場合、身内の患者さんが回復する具体的な手立てを知りたいことを希望されています。一般に専門家の講演会に参加しても、知識は増えこそすれ、その情報を用いてそれまでの認識や行動を変える力、すなわち「メンタルヘルス・リテラシー」が培われるわけではないと言えます。

「メンタルヘルス・リテラシー」を身につける方法の一つではありませんが、そのうち有力な方法が同じ問題を抱える人同士の交流です。恵贈^{けいぞう}いただいた世田谷さくら会の「50年のあ

ゆみ」の表紙には「集い、学び、つながるあしたへ」と書かれています。「集い」すなわち、家族会会員の皆さん同士の「ふれあい」や「ささえあい」が力を身につける出発点です。家族会に初めて出席した方は、「うちの子どもは……」と涙ながらに話し始めます。そして話し終



わった後、他の人も同様な体験をしてきたことを知りほっとされます。経験者の方々は、話を聞いて自身の経験を振り返り、新たな発見をするきっかけを得ます。こういう経験を積み重ねると、専門家が提供する一般的な情報から自分たちに即した意味ある情報を汲み取ることができようになります。つまり、情報提供が有効になるのは家族会活動を通じて会員が情報を受け取る力を身につけているからということになります。

一緒に活動してきた

小松正泰さんと家族会

ここで、私が長年「あやめ会」にかかわるきっかけを作ってく

れた小松正泰さんが2023年4月98歳でなくなる2年半ほど前に「NPOあやめ通信」に「9070親子の現況ご報告」と題して寄稿された残した文章を紹介させていただきます。小松さんは1994年から2008年まで「あやめ会」会長を務め、そのうち2003年から2005年の解散まで全家連理事長を勤められました。

小松さんは息子さんとの二人暮らしを「老々介護」として詳しく紹介し、以下のようにまとめています。

……今から50年前長男の発症時、本人に病識が全くないため、やむなく騙して精神科病院に入

れて以来、わが家の父子関係はずっと超最悪でした。一転して平和な老々介護の日々になれたのは筆者が変わったからでした。昔現役時代は長男を常に会社の同年配の部下に引き比べて絶対に許せなかったのですが、あやめ会に関係し、窓の会を開設し、精神保健・医療の分野にどっぷり漬かって初めて彼を理解できたと思うのです。あやめ会に感謝です。もう、人の役に立つことも無いし、あとはピンピンころりを目指して死ぬまで生きるだけです。

(NPO あやめ通信58号、2021年1月1日号より、抜粋)

小松さんはその後老人ホーム

に入居され、通院などの際は息子さんが同伴していました。なくなる直前に電話で話した時、「心残りはもう一度ウナギを食べることかな」と笑って話されていました。その時、家で一人暮らしをしている息子さんを案じる言葉はもうありませんでした。小松さんと一緒に活動してきた経緯を振り返り、「メンタルヘルス・リテラシー」のゴールは、みんなの安心と和やかな家庭の回復にあると改めて感じます。

これからの家族会に望むこと

人が精神保健の領域で課題を抱えたとき、どう生きるかに正解はありません。でも、私は家

族会の力を利用しない手はないと思います。最近、家族会には高齢化や会員数の減少などの課題があると伺うことがあります。でも、家族会活動60年の貴重な経験を財産とし、「集い、学び、つながる」という家族会本来の地道な活動が続くことで、会員の皆さんがみんな歩いて作ってきた道が、未来に向かって伸びてゆくことを信じてやみません。私も「メリデンプ版訪問家族支援」の普及などを通じて、安心して和やかな家庭が営めることがあたり前になる日が一日も早く来ることを念じて、家族会を応援していきたいと思います。

全国家族会60年の歴史に想う

埼玉県精神障害者家族会連合会 飯塚壽美

地元の家族会に参加してから30年が経ちました。全国精神障害者家族会連合会（以下、全家連）の結成から60年を迎えた今年、ちょうど半分の年数に参加したことになります。日本武道館で開催された30周年記念大会の後で、「みんなで歩けば道になる」精神障害者に正しい理解を！！」の横断幕を掲げて、最寄り駅まで歩いたことは懐かしい思い出です。

息子が精神疾患とも知らず

に、一般常識の下で必死に向きあった5年間は、今振り返るととてもつらい日々でした。入院が必要となつて初めて病名を告げられ、保健所の役割と家族会があることを知りました。

初めて訪れた家族会には、全家連で活躍されたHさんや、埼玉県で初めて作業所を立ち上げたAさんがいました。知的障害者に日中参加ができる施設があることをうらやましいと言ったAさんに、羨ましいと思うだ

けでは卑怯だ。自分たちで苦労しなければ」と言われて、立ち上げに尽力したそうです。

家族会が大事であり、その継続を願う先輩たちは、新しい会員にいろいろな配慮をしてくださいました。全家連のリーダー研修会への参加を勧め、研修会の情報を与えてくれました。パシフィコ横浜で開催された関東ブロック大会を皮切りに、各地の大会に出かけては多くの家族と



飯塚壽美さん

出会い、広い視野から精神疾患に関する知識を得たり、問題に向きあうことになりました。

埼家連30周年記念誌によれば、精神医療のよりどころとなる、各県に1つは望まれた公立精神医療センターの立ち上げに尽力したようです。全家連では、社会復帰後を支える精神保健福祉士の国家資格化を求めて、安心して支援者になるように図り、また精神分裂病という病名を統合失調症に変えて、本人と家族への告知を可能として、病気に正しく向きあうことを図りました。

地域家族会では、全てを自分たちで考えて運営するので大変でしたが、皆で考え実行するこ

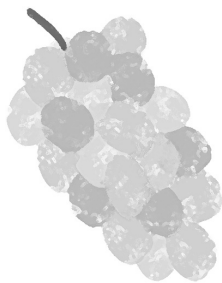
とで自立心が養われたように思えます。地域に開かれた2つ目の作業所を立ち上げて、資金を集め小規模法人化を成し遂げたのも、会員の想いが結集した結果です。

今も作業工賃があまりに少なく、本人のやる気が起きず、年金と合わせての自立が叶わないことは、今後も取り組むべき課題です。

精神科医療の特例のために、入院しても十分な治療が受けられないことや、心の健康政策の実現を求めて、大宮駅や浦和駅また新宿駅西口でまで街宣車に載って訴えたことも、未だ達成していません。

国へ意見を述べる立場の全国

組織には、身体や知的障害者と同じ福祉策を求める要求を続けていく役割があります。アメリカのケネディー元大統領は、"国が何をしてくれるのかを期待するのではなく、国に何ができるのかを考えて欲しい"と言いました。各県連が何をみんなねつとにできるのかを考えて、高齢化した家族が安心して後事を托せる社会実現のために、一丸となつて活動していくことを心から願っています。





ありのままがいい

知人から、電話がときどきかかってくる。お話しするだけで、その日はよく眠れる、と喜んで下さる。

どんなお話かというと、その方がこちらにある気がかりなことを、気が向くままに話してくださるのを、こちらはずきながら聴いている。そしてひと区切りついたところで、こちらの感想をありのままに伝える。

そのとき、こちらのところに浮かんた本当の気持ちをまっすぐに話す。まずは相手の魅力のあるところを言葉にして伝えてから、お話全体についての感想を伝える。ときにはユーモアを交えて辛辣な批評しんらつもする。お互いに笑ってしまう。ここから湧いてくる言葉をそのまま伝えると、二人の間に明るい方向も見えてくる。こちらが腹が立つたら、それも事実



だけを客観的に伝える。相手は笑いながらこちらを「怒りん坊」と言う。それでも、お互いは元気になって、「またかけるね」と笑顔で電話が終わる。

そんなやりとりが、この数か月、続いている。

その知人が、筆者は他の人々とは違う、と言うので、何が違うのか聞いてみると、生きている人間同士としてオープンに話ができるところが違う、と言う。

二人の対話は、お互いのありのままを出しあって続いているが、それがお互いを元気にするのなら、ありがたいことと思う。

（野村忠良）

《第78回》

離れて暮らす
娘への想い

みんなねっと電話相談
毎週水曜日 10時～15時
03-5941-6346



◆お母さまからのご相談

離れて暮らす娘さんのことで
お電話いただきました。

実家を出られて、3年ほど経
つ頃、気になる電話をしてくる
ようになったとのこと。一
人で暮らす部屋に誰かが監視を
メラを仕掛け、四六時中監視を
されていて落ち着かないなど
という相談だったそうです。お母
さまは「そんなことがあるはず
がないでしょう。気のせいよ」
と軽く受け流していました。そ
して、夏に帰省した娘さんは普
段と変わらない様子でお母さま
もやっぱり思い過ごしたのだ
と胸をなでおろしました。と
ころが、娘さんが出かけた時、

荷物が目に入り、鞆の口から病
院から処方してもらった薬の袋
がチラリと見えました。気にな
って手に取ってみると、それ
は精神科クリニックから処方さ
れた薬であることがわかりまし
た。お母さまの中で何かが弾け
ました。帰ってきた娘を問い詰
めました。しかし、娘さんは
「放っておいて」と取りあつて
くれなかったそうです。その後
話しあいもないまま娘さんは自
分の暮らしている場所へと帰っ
てしまったとのことでした。

◆お母さまの想い

娘さんは、小さいころから何
事も真面目に一生懸命に取り組
み、親の期待に応え続けてきた

そうです。そのため半面、親の顔色を伺うように育ってきたのかもしれない。だから今回何も話してくれないことは、とてもショックでした。

しかし、娘さんが今まで一生懸命がんばってきたことは十分にわかっているので、今後は自分の好きなことをして自由に生きていつてほしい。自分の人生を彩りよく豊かに送ってほしいと願われていました。

◆相談員からお伝えしたこと

お母さまのお気持ちは痛いほどわかります。離れているからますます心配は募りますね。しかし娘さんは立派だと思えます。自分の症状と真正面から向

きあい、何とかしなければとの思いから早期に医療につながっておられる。そこに至るまできつというんな葛藤があったはずです。それでも娘さんは負けずに闘っておられる。それを想像すると胸が熱くなります。どうぞ今後とも娘さんを見守っていてください。

お話をしていく中で、見え隠れするお母さまの心の内にあるわだかまりに対して、この病気は誰もがなり得るごく一般的な病気であり、決して隠さなければいけない病気ではないこと、娘さんのように早期に気づき早期に治療に結びつくことの大切さを丁寧にお伝えしました。お母さまからは、「そうなんです

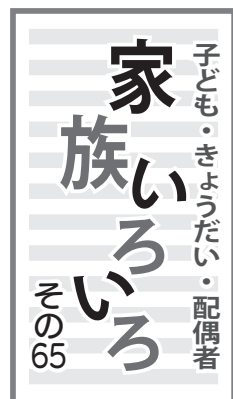
ね。私はひどい言葉を言ってしまった……。」とポツリ……。

相談員は「無理ありません。初めてこの病気と遭遇した時の戸惑い、驚きは私たち家族の想像を超えています。これから少しずつ学んでいきましょう」とお伝えしました。

◆相談員の想い

ご自分の心のわだかまりを隠さずに正直に伝えてくださり、相談員の話にも真剣に耳を傾けてくださいました。きつとよい方向に向かわれていくでしょう。この病気が気軽に誰とでも話せるような社会になることを願って止みません。

(隅谷和生)



諦めきれず 進んできた8年間

EMILD

病名を知ったのは婚約後

夫の症状を知ったのは、婚約後のことです。半年間交際した彼の家にスーツケースを持ちこんだ日、スーツケースをそのまま上げたことを激しい剣幕で怒鳴られました。その夜、高校時代に強迫性障害と診断されてい

たと告げられました。私の父も精神疾患を持っていたので、症状があるから結婚しないのは直感的に違うと感じ、症状と将来に対する不安は感じていたものの、結婚しました。

新婚生活

新婚の頃、私は单身海外での仕事を始めたばかりでした。一時帰国のたびに夫の家に泊まりましたが、ベランダは「汚い」ため洗濯物を干せず、窓も開けられませんでした。自転車で車道の端を走った際には「立ちションがあつたかもしれない」と怒鳴られ、デートが突然終了することもありました。普段は情に厚く優しい人なのに、症状

が出ると豹変し、私は不安から心療内科に通うようになりました。

海外生活

海外生活3年目まで、夫は毎月のように私の元へ来てくれました。やがて夫は退職して同居を始めましたが、周囲に風俗店が多かったそうで、病状が悪化しました。「巻き込み」に極力応じないようにしましたが、そのせいで激しい喧嘩が増え、夫の帰宅前に動悸がするようになり、ついには起き上がれなくなりました。

大好きな人と暮らして、好きな仕事ができるはずだったのに、何のために生きているのか

絶望と恐怖を感じました。この絶望的な生活を終わらせるため、転職活動を始め、就職先が決まったところで帰国しました。

通院開始

帰国後、自由に生きることが出来るすばらしさに、ようやくまともに息が吸えるようになってのように感じ、静かな日常に感謝しました。

私が帰国して2か月後に夫も転職先が決まったため帰国し、私の家から数駅先の場所ですら始めました。また、ようやく病院にもつながり、薬物治療と認知行動療法を開始しました。治療が開始されると症状がよくなっていき、私の不安も小さく

なっていきました。一緒にマンションの別の部屋に住めるようになり、近所にも風俗店ができたらしく、夫の症状は再び悪化しています。

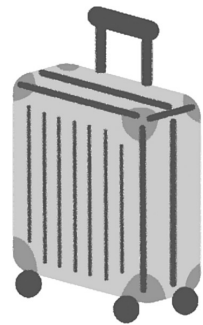
受け入れたいのにできない

夫は、私のために治療を続けてくれています。でも、「治療をするのは自分だけで病人扱いされている」と自尊心が傷ついています。また、「治療をする自分だけが我慢するのは不公平」だと言われたこともありま

す。私にとって、我慢することと、症状をもつ相手を受け入れてあわせることは異なると感じます。際限なくひどくなってい

く「巻き込み」を経験しているからこそ、我慢することは絶望につながりそうで怖いのです。一方で、私には、症状を持つ相手を受け入れる、という考えが欠けていると感じます。

血のつながらない夫婦は別れる存在です。でも、私は諦めが悪く、どうしたら症状を持つ相手を受け入れることが出来るようになるのか、時間とともに見えてくるかもしれないと考え、待ち続けてしまっています。



精神科の訪問看護を続ける ～児童思春期に舞台を移して～

(対話) 逆井裕美・岩谷潤



《対話者のプロフィール》

逆井裕美 さかひひろみ 精神科看護師として、

精神科病院の病棟、デイケアを経て、千葉県のACCTJで約10年間勤務した。現在は児童思春期のこころの問題に特化した訪問看護ステーション「ナンナル」で訪問看護を続けている

岩谷潤 いわたじゅん 一般社団法人COMET共同代表、あちこちシネマ主宰

児童思春期の方への訪問とは

岩谷 今されている児童思春期の訪問看護ではどんな利用者さんがいらつしやるんですか？

逆井 就学前のお子さんから大人の方もいます。発達障害や不登校、ひきこもりなどの方もいれば、不安障害や強迫性障害、

統合失調症の方などいろいろな方がいます。

岩谷 ACCTにいた時に一緒に出会ったひきこもりの人は、30～50代の人が多かったですね。今の訪問ではどんな印象を持っていますか？

逆井 ACCTの時に出会った方はいろいろな経験があったんですねって思ってたんですけど、今出会う方たちは、もうそんな経験されたのかと思うことがあります。そして、それを聞かせてもらうと悲しみというか、やるせないような感情が出てくる。そんなに小さい時から、と思います。学校で手や言葉の不器用さが理解されなかったりいじめられたり



逆井裕美さん

して、怖くなったり不安になって、自分のネガティブな部分を人に見せたくない今の状態になってる感じがします。

岩谷 人に見せたくない、というのはどう表現されるんですか？

逆井 明確に言葉にできる人ばかりじゃないからできないことを知られたくなくてこもつてみたり、「できるもん」って自分を大きく見せようとしたり、自

分の中で不安なこと、心配なこととはしない、とか。

岩谷 訪問場面で見えてくるんだ。接する時はどんな感じなんですか？

逆井 児童思春期の方が多いので、ほとんどが親御さんがいますね。親御さんとかご兄弟が一緒にいないと話ができない子とか、中には部屋から出てこない子もいるし、最初のあいさつだけは出てきて、その後は部屋に戻っちゃうとか。会えない時はA C Tの時みたいにお手紙を書いてみたり、ご家族への支援も大事だなんて改めて思います。

体験の積み上げで「卒業」へ

岩谷 本人さんはご家族とは話

をする人が多いの？

逆井 年齢的なものが大きいかもだけど、家族とも会わない、しゃべらないという人はあまりいないかな。

岩谷 一旦、動き出すとこちらが驚くような成長も見せてくれる人もいます。

逆井 A C Tの時は訪問看護卒業よりも、地域で長く暮らすのを支え続けますというイメージで関わっていたけど、今は、訪問看護の「卒業」までの期間がすごく短いし、卒業という言葉が前より近い気がします。

岩谷 卒業というのは、例えば人と会うと緊張するとか自信が持ちにいくとか、本当に困っていることの全てはすぐに解決し

なくても、学校に行けない、外に行けない、という目に見える困りごとは、外に行ける、学校に行ける、年齢によっては仕事に行ける、ようになるってこと？

逆井 そうですそうです。でもそうは言っても、そこに行くまでの関わりの難しさはすごくありますね。大人の方だと、うまくいった、楽しかったって経験が、すごく遡さかのぼるとしても、

絶対あるじゃないですか。子どもの場合って、そういう体験がほとんどなかったりするんですよ。だからそこを積み上げるところから、というのをがんばったりします。どんな小さなことでいいからと思つて。そうすると、訪問で一緒にやったゲー

ムが楽しかったとか、嫌々行つてた習い事の帰りに食べたアイスクリームが美味しかったとか、歯医者さんに行くのがすごく嫌いだったけど、がんばって行ったら本を買ってもらえるとか、何かしらあったりします。年齢が低いから言葉だけじゃ難しいので、五感を意識することも多いです。味とか、触つて落ち着くとか。

「安心」があるから次にいける

岩谷 味覚では僕も、時々しか話してくれなかったひきこもりさんが、ハンバーガーうまいっす、オムレツも好きですね、やっぱ挽き肉を使った料理はうまいっすねって話してくれたのが

うれしくて、いまも覚えてます。今は学校には行けなくても、昔のことを思い出して、親とは話せる、訪問看護師とも話せる、というのを今している。その現在がさらに後から思い出せるように循環していくのはとても大切だと思います。ひきこもっている人って、安心できずに身構えている印象があります。外は安心できない。親とも話せない人は家でも安心していない。大きく言うと、訪問する医療者の大きな目的は、普段安心することが難しい人に、いや、人と会つても大丈夫なんだよ、と感じてもらえることなのかもしれない。訪問を重ねて、安心してもらえるようになってきていると



岩谷潤さん

実感できる場面はありますか？

逆井 あります。表情が違ってきたり柔らかくなる。言葉遣いが和らいできて、緊張が和らいでタメ口になるとか（笑）。話す内容がちよっと深い内容になったり、その時の気持ちとか聴いてもはぐらかさずに答えてくれるとか。安心感というのは、やっぱり大事なんだと思う。

岩谷 安心してもらえるようにと、言葉も行動も変わっていく

よね。

逆井 精神科訪問看護での安心って、本当に大事だと改めて感じます。関わっている方の中では、お家も安心できる場所じゃないという子もいて。安心できる場所や人があって、そこからようやく次のステップになるから、そこを無くしては次に進めないと思うんです。

岩谷 ところで逆井さんが今の「ナンナル」さんで勤めるのは、なにが大きかったんですか？

逆井 大きかったのは、精神科訪問看護を続けたいというところですね。精神科看護がむしろいつて思ったのは、よくなる過程が数限りなくて可能性が無制限大って思ったからなんです。理

念ややり方が自分が大事にしていることと合うところを探して、今の職場に出会いました。早期介入って大事だなって思っていたのもあって、ご縁をいただきました。

岩谷 今後していきたいことはありますか？

逆井 ずっと現場主義でいきたいけど、看護学部で単発の講義もしたりもしています。精神科訪問看護っていう仕事もあるんだよと知ってほしいし、同じ医療の人や教育関連、地域の人にも知ってもらいたいな。

岩谷 いろんな方に温かく接してもらえる時代にしていきたいですね。今日はありがとうございました。

知りたい！ 聴きたい！ こんなとくみ

第54回

保護猫たちに会える 癒しのカフェ

「猫猫の森」(島根県・松江市)

株式会社正心会プラス

代表取締役社長 岩田美佐子さん

同・ぶらす工房(就労継続支援B型事業所)

管理者 岩田光夫さん

生活支援員 川西裕さん

障害者&猫&カフェ

松江といえば松江城や宍道湖が有名ですが、新しい連続テレビ小説『ばけげ』の舞台としても注目されています。今回はこの地で保護猫カフェ「猫猫の森」を運営する株式会社正心会プラスの皆さんにお話を伺いました。

岩田(美) もともと義父が精神科の診療所をやっていたのですが、高齢のため昨年暮れに閉鎖することになりました。私を手をあげて認知症対応型と障害者対象のグループホームの事業を継承しましたが、特に障害者



左から川西さん、岩田光夫さん、
岩田美佐子さん

のグループホームは稼働率が低く、その理由の一つに利用者の就労先がないということがありました。それなら働く場所を作ろう、利用者を選ばれる、他にない特徴のあるB型事業所を立ち上げようと決めました。私はもとと猫が好きで県外の猫カフェに行くこともあったので、B型で猫カフェをやったらおもしろいのではないかと思います。調

べてみたらB型の事業所で猫カフェをやっているところが香川県にあったので、すぐに連絡をとって立ち上げ前に実際に行って見学させてもらいました。

猫集めからはじまった猫猫の森

岩田（美） 2024年12月1

日、B型事業所が許可になり、猫カフェの開店準備が始まりました。店の名前は自然のイメージから『猫猫の森』に決めました。予想外に時間がかかったのは猫集めです。期待していた松江の保健所は猫の保護をしておらず、新聞で猫の里親募集の記事を見つけては、保護先に「うちで預かりますよ」と個別に連絡して県内や隣の県からも少しずつ

猫を集めていきました。そのため2月22日（にゃんにゃんにゃん）の猫の日に予定していたオープンが5月22日（ごろにゃんにゃん）に延びてしまいました。

岩田（光） 今回の猫カフェは譲渡型なので、開設にあたって保健所で第1種動物取扱業（展示）と第2種動物取扱業（譲渡）の許可をとりました。また、猫の安心安全を考えた設備や内装を整えるなどの準備に6か月ほどかかりました。

岩田（美） たまたま会社の近くにあった猫専門の家具屋さんにお願ひして、おしゃれで猫が喜ぶ内装に仕上げてもらいました。キャットステップと人間のベンチの役割を持つ、ツリーの

オブジェを店内中央に設置し、その周辺にはキャットウォークや生活感の出ない猫トイレ等のレイアウトなど専門店ならではのアイデアもたくさんあります。

岩田（光） B型が許可になってようやく「猫カフェをやりますよ」と利用者の募集ができるようになりました。最初は利用者ゼロで、集まり始めたのは今年の2月からですね。うちに向いている人は猫が好きなことにつきまします。現在の利用者は6名で、うち5名が女性、精神障害は4名です。見学希望も圧倒的に女性が多いですね。

猫カフェの作業は、カフェの受付や案内、お客さん用スリッパの消毒、清掃やゴミ捨て、キッ

チンでは飲み物の準備やサービスの提供、猫のケージやトイレの掃除、餌の準備などさまざまありますから、本人の特性に合わせて作業が提供できます。

猫カフェを始めてみたら……

岩田（美） インスタグラムやホームページで、ただの猫カフェでなく障害のある人の働く場所でもあることを前面に出してPRしています。カフェの来客数は開店から3か月弱で、のべ3000人に達しました。8回来られたリピーターもいます。出雲大社に観光に来られた方、帰省された方、今は夏休み（取材当時は8月）なので子どもも多いです。養護学校の課外学



店内には猫が喜ぶ
家具がたくさん

習や放課後デイサービスのレクリエーションでの利用もありました。床はバリアフリーなので高齢の方や車いすの利用もOKです。市内の猫カフェは現在うちだけなので物珍しさもあると思いますが、多くの方が「癒されたー」とおっしゃいます。現在スタッフ猫は20匹。これまで3匹が新しい飼い主さんに譲渡され、1匹はトライアル中です。空きがでたら条件（病気がない、ワクチン、不妊手術など）にあつ

た猫を新たにお預かりします。

猫のアニマルセラピー効果!?

川西 猫が好きなのと障害者福祉に興味があつて、この猫カフェで働くことになりました。支援者としては人によつて病気や障害が違ふので、それぞれに合わせて対応をすることを心がけていますが、あとは同じ猫カフェで働く仲間として対応しています。メンバーには、責任感が出てきたり、指示待ちだったのが言う前に自分から行動できるようになったり、ほとんどしゃべらなかつた方が自分からお客さんと話をするようになったりと変化が見られます。

岩田（美） 猫にもアニマルセ

ラピー効果があると思うんです。片麻痺のあるメンバーがいるのですが、リハビリを億劫がっていたのが、カフェで仕事をするようになってからは少しでも動けるようになっていって意欲がでて、リハビリに前向きになってきました。

岩田(光) お客さんとのコミュニケーションにやりがいを見つけた人もいますし、自分の仕事か休みの日にご家族と一緒にお客さんとしてやって来て、自分はこんなところで働いているんだと見せていたこともあります。お客さんとして来られた方がB型の利用につ



猫たちもリラックス

ながったこともあります。

これからに向けて

川西 今のところ県外など遠方から来るお客さんが多いので、もっと地元のお客さんとの交流がしたいですね。地域のお祭りなどイベントも企画していきたいです。

岩田(美) 株式会社正心会、プラスは「くらしさを大切に……地域と共に……」(利用者様・職員の皆さんが心身共に健康で豊かな生活が送れるよう、地域の皆様の愛し、愛されるよう進化し続ける事業所でありたいと思っています)というテーマを

掲げています。グループホームにお住まいの方は認知症高齢者や障害のある方なので、社会的に不利益な状況に置かれる立場であることが多いと思います。この社会的弱者の立場を周辺地域の方にも理解していただけるよう、保護猫カフェを事業所の核として、これからもさまざまな取り組みが出来る可能性を秘めていると考えています。この地域に「猫カフェ」や「グループホーム」があつてよかったと思っていただけのように、もつと言え、なくてはならない存在でいられるように、時代とともに進化する会社を目指していきたいです。

(取材・編集委員 菅原かほる)

フレー！フレー！これからの家族会 第30回

河内長野市精神障がい者家族会 わかば会

オンライン活用で家族会が元気に！
Zoomやラインで仲間をつなぐ情報共有と学びの場



◎各地でがんばっている家族会活動の紹介

出水淳子（大阪府）

家族会の活動

1995年発足、数年後には共同作業所を開所、会報わかばだより第1号発行。2004年には、作業所を法人化すべく、

寄附集めに奔走されたと先人たちの活躍と苦勞をお聞きしております。現在会員数は約30名、

年々減少しています。定例会は2か月に1度（10～13名参加）、

ふれあいサロン（おしゃべり会3～8名参加）は毎月第1月曜

に開催。定例会では施設見学会、DVD勉強会、ZOOM講演視

聴、支援者による講演、お食事会などを行っています。会報わか

ばだよりを2か月に1度発行（現在233号）。市への要望書

を毎年提出し、関係機関の会合へは役員で手わけして出席しています。役員も高齢化し活動は縮小傾向にありますが、細々とでも続けていくことが大事だと思っています。

ピンチはチャンス

遠くはZoomで縦糸を

河内長野市は、大家連（大阪府精神障害者家族会連合会）が主催する精神保健福祉講座の会場までバスと電車で1時間半ほどかかる所に位置します。「聞きたい」と思う講演会があっても、足が遠のく状態でした。そんな折り、講座がZoom配信されるようになりました（2022年）。「ズーム？ そんな

の使ったことないし、使えない」
と思っていました。が、大家連が
「Zoom基礎セミナー」を開
催してくださり、なんとか使え
るところまでこぎつけました。

「Zoomを使つてわかば会
の例会でみんなで見よう、スマ
ホを使えない人もいっしょに学
べる」と役員会で話しあいまし
た。いつも使っている会館は、

インターネットをつな
ぐことができ、プロ
ジェクターとスクリー
ンをお借りして、うち
のパソコンを持参して
始めました。線のつな
ぎ方もわかりませんで
したが、日頃は家族会
に参加しない夫にも手



伝ってもらいながら、なんとか
みんなで視聴できました。会館
でプロジェクターをお借りする
のに毎回2千円もかかるので、
家族会の会計から新しいプロ
ジェクターも購入しました。パ
ソコンや機械のことはさっぱり
わからないと躊躇される方も多
いと思いますが、ここはチャン
スです、パソコンが得意な家族

さんや当事者さん
に声をかけて手
伝ってもらって
はどうでしょうか。

Zoom視聴の
あと、講演の感想
や近況を話しあい
ます、ひと言感想
も書いていただ

き、次の会報に載せています。

LINEで近くに横糸を

わかば会も会員が増えませ
ん、高齢化と若い人が入ってこ
ないのはどこも同じ悩みです。
高齢になると外出も億劫になっ
ていくことでしょう。グループ
LINE（わかば会ふれあいラ
イン）を2021年に始めまし
た。Zoomでは遠くの講演会
を聞き、LINEでは横のつな
がり、毎月の「ふれあいサロン」
へ行けば誰かに会える、これな
らおばあちゃんになっても仲間
とつながり、楽しく過ごせそう
です。

お問合せ…だいかれん事務局

06-6941-5797

新会長に聞く！

第1回

各都道府県連合会

新会長からの

メッセージをお届け！

秋田県

特定非営利活動法人秋田県精神保健福祉会連合会

理事長 鈴木憲一

令和6年

度に理事長

拝命して、

二期目を迎

えました。



広い視点で俯瞰してみると、精神障害者を取り巻く環境は依然として変わらないと思える点も

まだまだあります。旧来体制の殻を破り、大きな転換を図る必要があるのではないかと強く感じております。

今年度は「精神障害者支援の障がい特性と支援技法を学ぶ研修会」という新たな事業を秋田県より受託しました。精神障害者に対する地域生活への移行や地域で暮らし続ける支援を行ないながら関係機関の連携による相談支援体制のさらなる充実に向けて努める所存です。また、やや手狭な事務所を今よりも広いスペースで確保できるよう、県への申し入れも進めております。今後も精神保健福祉の充実と発展に寄与し精神障害者が地域の中で安心して暮らせる社会

を目指してまいります。

茨城県

一般社団法人茨城県精神保健福祉会連合会

会長 弓野孝子

前会長か

ら「自分は

高齢なので

あとは弓野

さんにお願

いしたい」と言われ、自分も会

長の下で副会長として務めてき

ましたので、今年度から会長を

受けることにしました。

今の茨城県連は役員の皆さん

も県内の家族会長さんたちもみ

んな思いやりがあつて、元気に

がんばっている人たちなので、

皆さんの協力があれば私でも会



長ができるかも？　と思つてしまつたのです。

「みんなねつと」「茨城県連」

「家族会」それぞれに担う役割が違いますから、まずは《各家族会でできることは何か》、《県連としてやるべきことは何か》を皆で考えながら取り組んでいくことが大事だと思つています。そして、「みんなねつと」としての活動にはできる限り協力をして盛り上げていきたいと考えています。盛り上げに必要なことは皆さんとの出会いに感謝し、活動の中に小さな楽しみ、喜びを見つけることだと私は思っています。

さてと、精神障がいへの周知・啓発、まだまだ足りないと感じ

ていますので、老化防止に関係機関に足を運び、元気に声を出していきます。

埼玉県

埼玉県精神障害者家族会連合会

会長　佐藤美樹子

埼玉県さ

いたま市の

地域家族会

である「も

くせい家族

会」に所属して25年たちました。



先輩の背中を追いつつ、家族として何ができるのかと考える日々でした。さまざまな役目を担う中で、今年度から会長を引き受けることになりました。埼玉県全体を意識する中で、みんな

なねつとが県連の集合体であり、それぞれが支える力となることにより、そこに存在することができると改めて思いました。

家族会があつたからこそ仲間に出会えて今の自分があります。現在も仲間を支えられています。家族として仲間になる方は今後大勢続いていくことと思います。これからの人たちはどんな仲間づくりを求めているのかと考えているところです。

発症間もない時の家族の驚き・不安は今も変わらないのではないかと思います。安心して語りあえる、仲間と出会える場所が埼玉、全国の隅々にまであり続けますようにこのリレーを繋いでいきたいと思っています。

お知らせします みんなねつとの活動

■第135回労働政策審議会障害者雇用分科会

令和7年7月14日に開催された「第135回労働政策審議会障害者雇用分科会」の主な内容と新銀委員（みんなねつと副理委員長）の発言を紹介します。

雇用目標と実績の評価

議題は、障害者雇用対策課による2024年度の雇用関連目標の評価から始まりました。ハローワークを通じた障害者の就職件数は、前年度の実績を4.4%上回る11万5609件となり、目標を大きく達成。これは

新規求職件数と専用求人数の増加に加え、法定雇用率の段階的引き上げに伴う雇用促進への機運の高まりが背景にあると分析されました。

また、2025年度の新たな目標設定案が提示され、ハローワークの就職件数については前年度実績以上となる11万5609件以上、雇用率達成企業割合は過去10年間の平均伸び率などを加味した45.9%以上とする案が示されました。これに対し、労働側委員からは「より積極的な目標設定を」との意見も出されました。

解雇者数と相談件数の急増

会議では、就労継続支援A型事業所の利用者を中心とした解

雇者数が、過去最高の9312人に達したことが報告されました。これは主に、生産活動収支が赤字の事業所に対する報酬減算措置といった政策変更の影響が大きく、委員からは「障害者や労働者にしわ寄せが行くような状況はあってはならない」として、丁寧な再就職支援や政策実施時の経過措置の必要性が要望されました。

さらに、雇用の分野における障害者差別や合理的配慮に関する相談件数が、前年度比で78.8%と大幅に増加したという報告も注目を集めました。

新銀委員の「募集・採用時」に関する意見

この相談件数の増加につい

て、新銀委員は、障害者側が問題解決に向けて積極的に行動できる環境が整ってきたことの表れだと肯定的に評価しました。しかし、同時に相談内容で「募集・採用時」が最も多いことに触れ、「採用時に障害者だから」という理由で差別的対応が見られることは残念」と懸念を表明しました。

同委員は、「障害の有無に関係なく、能力を評価できるチャンスが何人にも平等であるべき」と強く主張。雇う側にとつてのデメリットばかりがクロージアップされがちな現状に警鐘を鳴らし、障害者雇用によって企業が得られるメリットを社会全体でさらに共有していくべき

みんなねっと事務局の動き

8月1日(金)	JDF能登支援センター連絡会議
8月5日(火)	京都大会実行委員会
8月5日(火)	栃木県連訪問
8月5日(火)	JDF政策委員会
8月12日(火)	みんなねっと代表理事会
8月13日(水)	埼玉県連訪問
8月14日(木)	事前レク精神保健医療福祉の今後の施策推進に関する検討会
8月18日(月)	東京都連訪問
8月18日(月)	「知りたい！聴きたい！こんなとりくみ」取材
8月19日(火)	京都大会打合せ
8月19日(火)	プレメディア会議
8月20日(水)	GMHCS／ShowCase事前会議 第1回
8月20日(水)	精神保健医療福祉の今後の施策推進に関する検討会
8月21日(木)	京都大会交通運賃分科会打合せ
8月21日(木)	観光庁事業 有識者委嘱説明
8月22日(金)	みんなねっと中期計画委員会
8月25日(月)	みんなねっと代表理事会
8月28日(木)	これからの精神保健福祉を考える会（仮称／第2回準備会）
8月29日(金)	福岡県連訪問

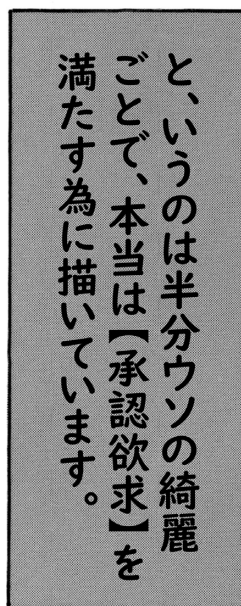
だと訴えました。この根本的な意識改革こそが、真の意味で障害者雇用を進める鍵であるとい

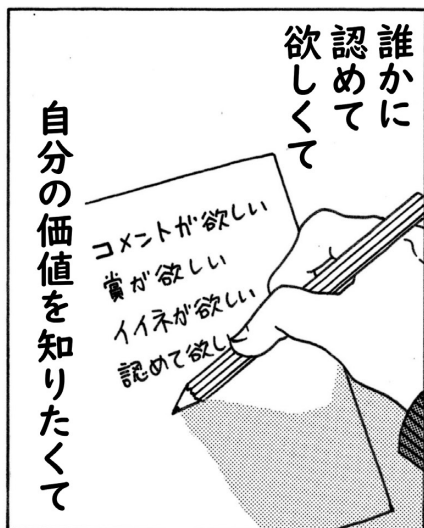
う提言は、分科会の議論に重みを与えました。

生きている。

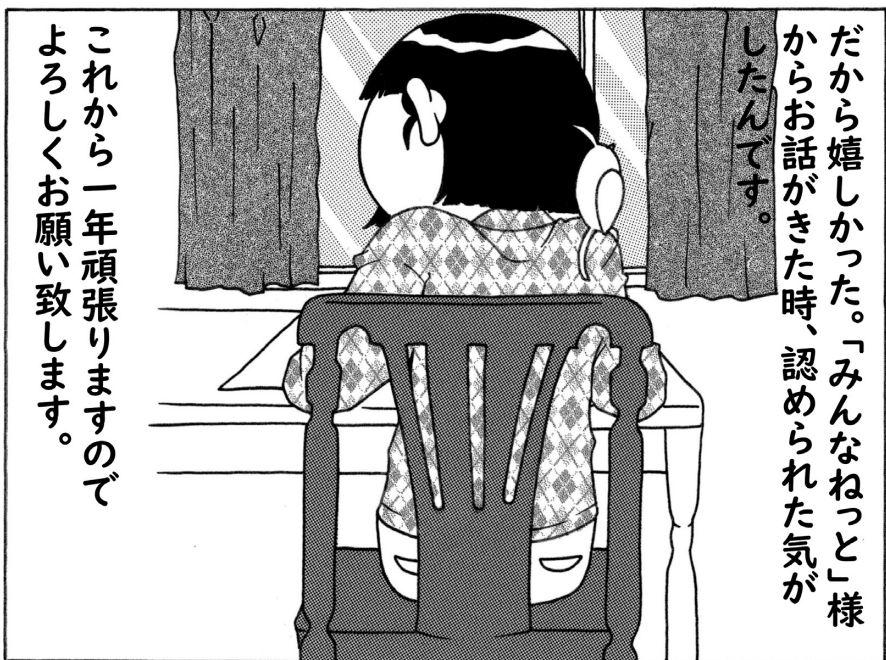
カタマリ
第1話『生きる塊』

作：うらうめ もち子





それが、病気の自分と向き合う私なりの形。



■家族会活動がスタートして60年。家族のみならず、ご尽力により作業所などの社会資源ができ、ソーシャルワーカーの国家資格化が実現し、保護者制度が廃止されました。しかし、まだまだ社会は変わらなければならぬことだらけです。そのためには多くの仲間や支えてくれる人たちと同じ方向を向き進む必要があると思っています。私が家族会と関わって24年。これからも応援者の一人として共に歩んでいきたいと思っています。(高村)

■我が家の2匹の猫(5歳)も子猫の頃に一緒に引き取った保護猫なので、今回の「猫猫の森」の保護猫活動がとても身近です。うちの猫たちは、毎日仲良くしていたと思えば猫パンチが飛び交い、気づけば寝ています。抱っこはさせてくれなけれど「撫でろ」とお尻を突き出されたら僕は従うしかありません。でも家族の笑顔が増えました。猫を飼いたいと思われる方は是非保護猫も候補に！(菅原)

■60年、激動といってもよい時代の変化の中を、当事者や家族の抱えるさまざまな悩みや問題を取り除くべく、いろいろな取り組みを、粘り強く地道に活動し続けてきたこと、家族会の「集い、学び、つながる」重さや深さをあらためて学ばせていただきました。とくに、千差万別な家族や当事者への細やかなまなざしに心打たれます。これからも、みんなの安らかで和やかな暮らしのある未来目指して進みたいと思います。(松坂)

【交流サイトを開設】インターネット上で、家族同士が交流できるサイト「みんなねっとサロン」を開設しました。withコロナの時代の新しい家族会活動の一つです。パソコンだけでなく、スマートフォンでも見やすくなっています。下記にアクセスしてください。https://minnanet-salon.net/



月刊 **みんなねっと** 通巻第223号(2025年10月号)

定価 300 円

発行日 2025 年 10 月 1 日

発行者 公益社団法人全国精神保健福祉会連合会

理事長 岡田久実子

〒167-0054 東京都杉並区松庵3丁目13番12号

TEL03-5941-6345 FAX03-5941-6347

ホームページ www.seishinhoken.jp

郵便振替 00130-0-338317 加入者名 みんなねっと

賛助会費(会費に購読料含む)

個別・年間 3600円

複数・年間(お問い合わせください)

印刷・製本/倉敷印刷株式会社

表紙のデザイン/いりす

第12回精神障がい者と家族のための市民公開講座

統合失調症への理解を深める

～社会とのつながりを持つために～

オンライン開催について	・ パソコン、スマートフォン、タブレットからご参加いただけます。 ・ お申込みいただいた方には、11月28日(金)にURLとパスワードをお送りいたします。 ・ お送りしたURLをクリックし、パスワードを入力してログインしてください。 ・ 開始30分前から接続可能です。
Q&Aセッション (質疑応答) について	・ 後半のQ&Aセッション(質疑応答)は、みなさんからいただいた質問をもとに、進めて参ります。 ・ Q&Aセッション(質疑応答)でのご質問は、お申込みの際に事前に受け付けております。当日は質問をお受けできません。 ・ 治療内容などの個人的な質問はお控えください。また、時間の都合上すべての質問にはお答えできない場合がございますので、あらかじめご了承ください。 ・ 【事前質問受付】 2025年11月21日(金)24時まで。
録画配信	・ 2025年12月12日(金)12:00～12月26日(金)12:00まで。 ・ 下記URLからご視聴ください。(事前のお申し込みは不要です) https://www.smilenavigator.jp/information/forum/
個人情報の 取り扱いに ついて	※お預かりした個人情報は、市民公開講座のWeb開催のお知らせのために活用させていただき、業務委託先を除く第三者に提供することはありません。個人情報は「精神障がい者と家族のための市民公開講座」事務局が安全かつ適切に管理いたします。

管理者:「精神障がい者と家族のための市民公開講座」事務局

お問合せ先:E-mail workstyle-seminar@newsbase.co.jp

オンライン開催
(ZOOMウェビナー)

第12回精神障がい者と家族のための市民公開講座 統合失調症への理解を深める ～社会とのつながりを持つために～

統合失調症は、生涯に約100人に1人が経験するとされる精神疾患で、決して珍しい病気ではありません。しかし、症状の多様性や誤解・偏見の影響により、適切な支援につながっていない方も少なくありません。統合失調症は、早期に発見し、継続的な治療と支援を受けることで、症状の安定や日常生活の質の向上が可能な病気です。また、再発を防ぎながら、安心して暮らせる環境づくりや人とのつながりを保つための支援も重要です。

今回の市民公開講座では、統合失調症のある方が安心して暮らしながら、自分らしい生活や働き方を見つけていくための支援について、専門の先生方や、当事者・ご家族の皆さまから体験を交えてお話しいたします。

また、Q&Aセッションでは、皆さまから事前にいただいた統合失調症に関するご質問について、演者の方々からご回答いただきます。

日時 2025年 11月29日(土) 13:00～15:30

参加費 無料
定員:500名

事前のお申し込みが必要です。
※事前に資料の配付はございませんが、後日録画放送を予定しております。

プログラム

司会 藤井 千代 氏〔国立研究開発法人 国立精神・神経医療研究センター
精神保健研究所 地域精神保健・法制度研究部〕

13:00 - 開会のあいさつ

13:05 - 講演1 『働きたい』に伴走する ～リカバリーのための就労支援～
林 輝男 氏〔社会医療法人 清和会 西川病院 理事長〕

13:35 - 講演2 アウトリーチを活用して社会とつながる～ACT・アウトリーチの意義と実際～
須田 竜太 氏〔一般社団法人Q-ACT 精神保健福祉士〕

14:05 - 講演3 当事者、ご家族の体験談

14:25 - 休憩

14:40 - Q&Aセッション(質疑応答)

15:25 - 閉会の挨拶

【お申し込み方法】

申込締切日

2025年
11月27日(木)
13時

下記URLよりお申し込みください。右の二次元バーコードからもお申し込みいただけます。

<https://entry.smktg.jp/public/application/add/8604>

※2025年11月28日(金)に視聴用URLとパスワードをお送りいたします。

